

テーマ1 授業4

「公平」について考えてみよう！

今日のルール



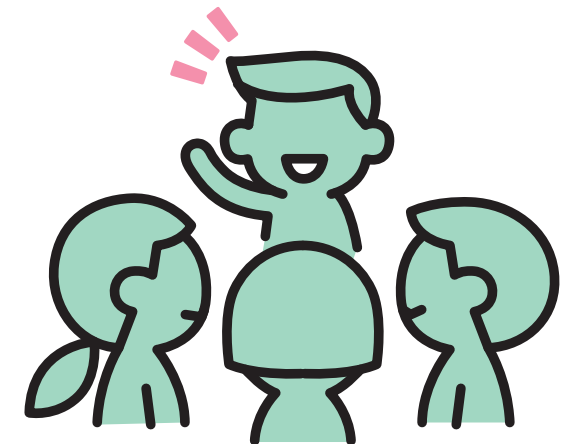
Think…考える



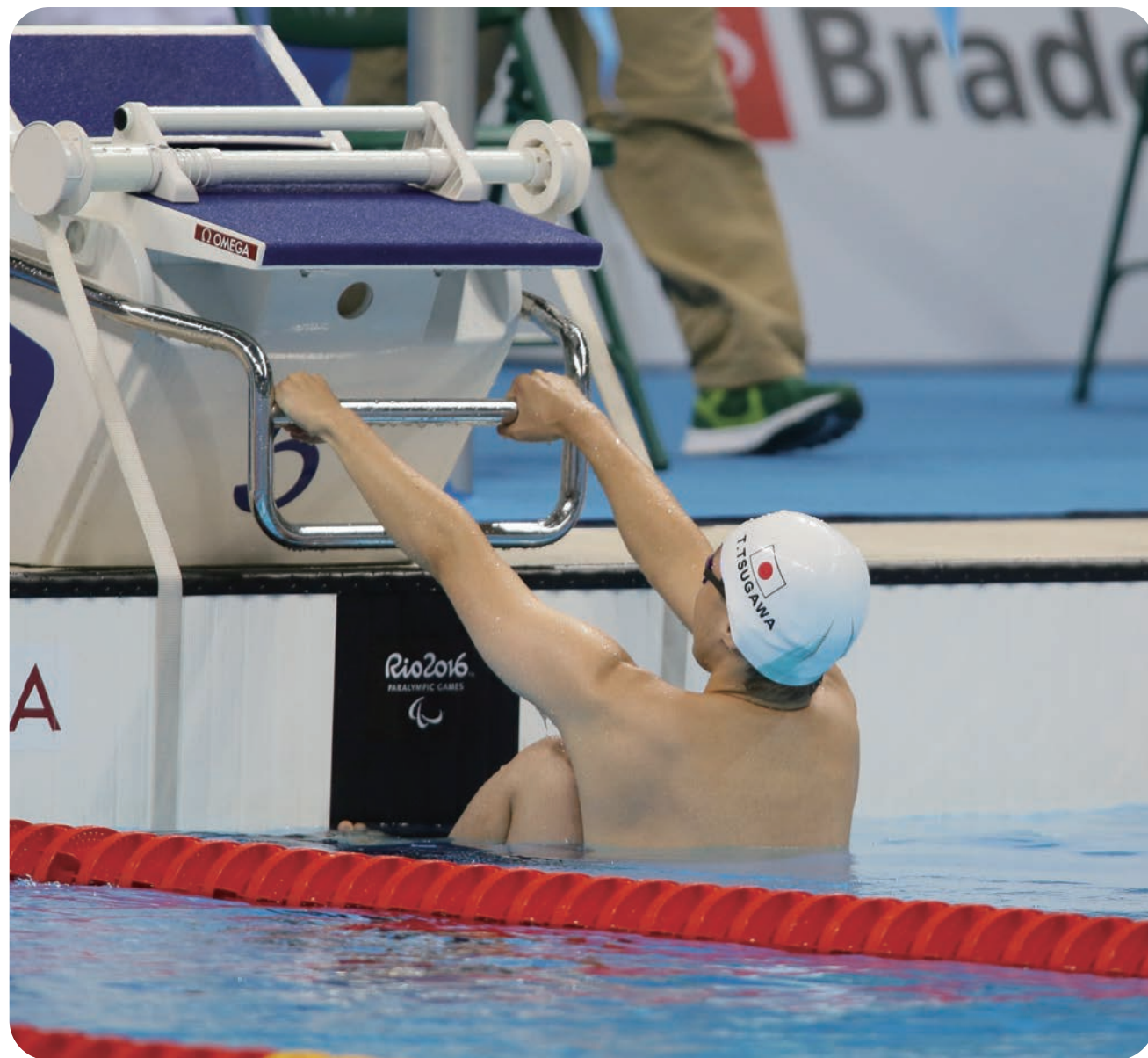
Pair……意見^{こうかん}交換する



Share…共有する



背泳ぎのスタート



パラリンピッククイズ



3人が背泳ぎの同じレースに出場する。
どうやってスタートするかな？



かたうで
片腕が不自由



両腕が不自由



自分の体をうまく
コントロールできない

答え 補助具を使用したり、チームスタッフが
が体を支えたりする。

背泳ぎスタート

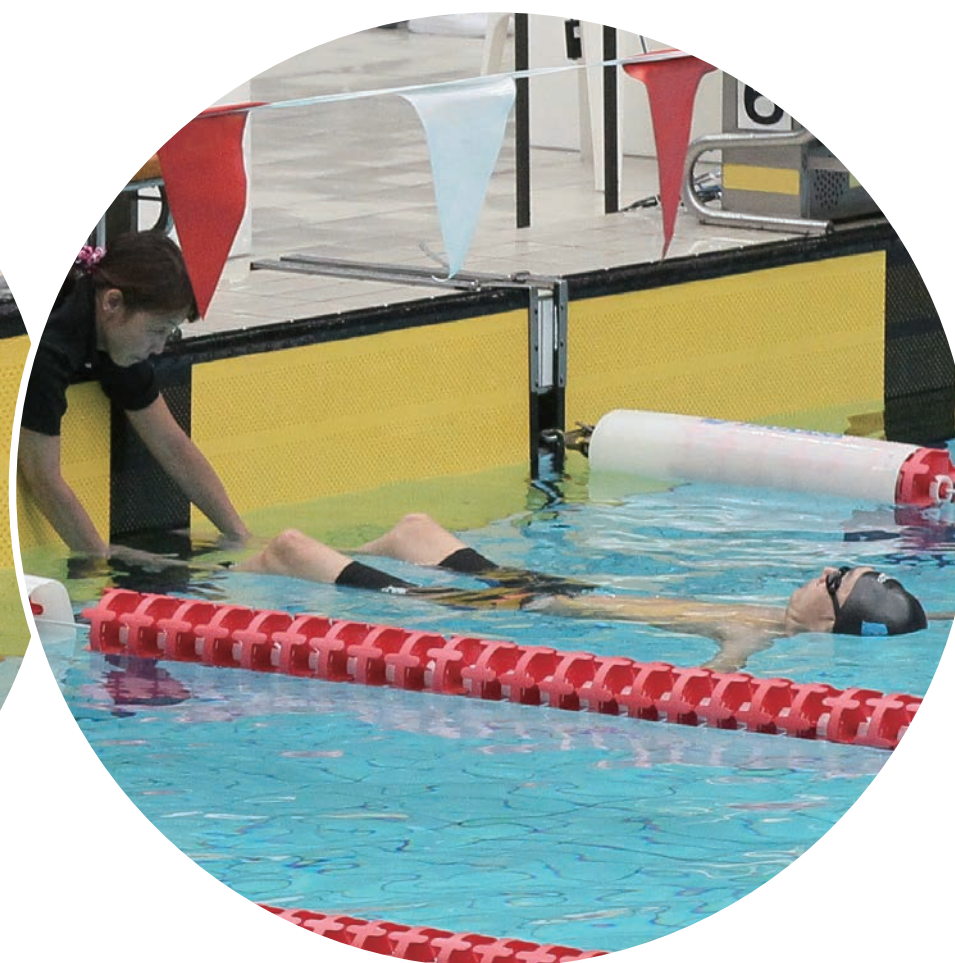


パラリンピックでの背泳ぎスタートの工夫

かたうで
片腕でスターティング
グリップを握る

補助具を使用

体を支えてもらう



「公平」なルールとは
何だろうか？

?

T

S

はらいちひろ な

原市紘奈さんの事例から考えよう。



はらいちひろ な

原市紘奈さん

原市さんが、小学6年生のときに書いた作文を読んで、ドッジボールが楽しくできた理由を考えよう。

様々な人が、
共にスポーツを楽しむための、
「公平」なルールとは？

公平なルールづくり ①

本質が損なわれることをしない。

背泳ぎ

- ・ グリップを両手で^{にぎ}握り、
両足で壁を^け蹴ってスタートする

ドッジ
ボール

- ・ 相手にボールを当てる競技である。



公平なルールづくり ②

不利な条件に^{はいりよ}配慮する。

- ・ グリップを^{にぎ}握ることができないときは補助具の使用や、スタッフの介入を認める。

（ただし、選手を^お押し出すなど有利になることをしてはいけない。）



公平なルールづくり ③

ルールづくりに当事者が
参画する。

- ・ はらいち 原市さんがクラスの人々と
ルールづくりをした。



目 「公平」を考える上で大切なこと

固定観念にとらわれず、相手の^{じょうきょう}状況やニーズを考え、個々に判断していくことが大切。



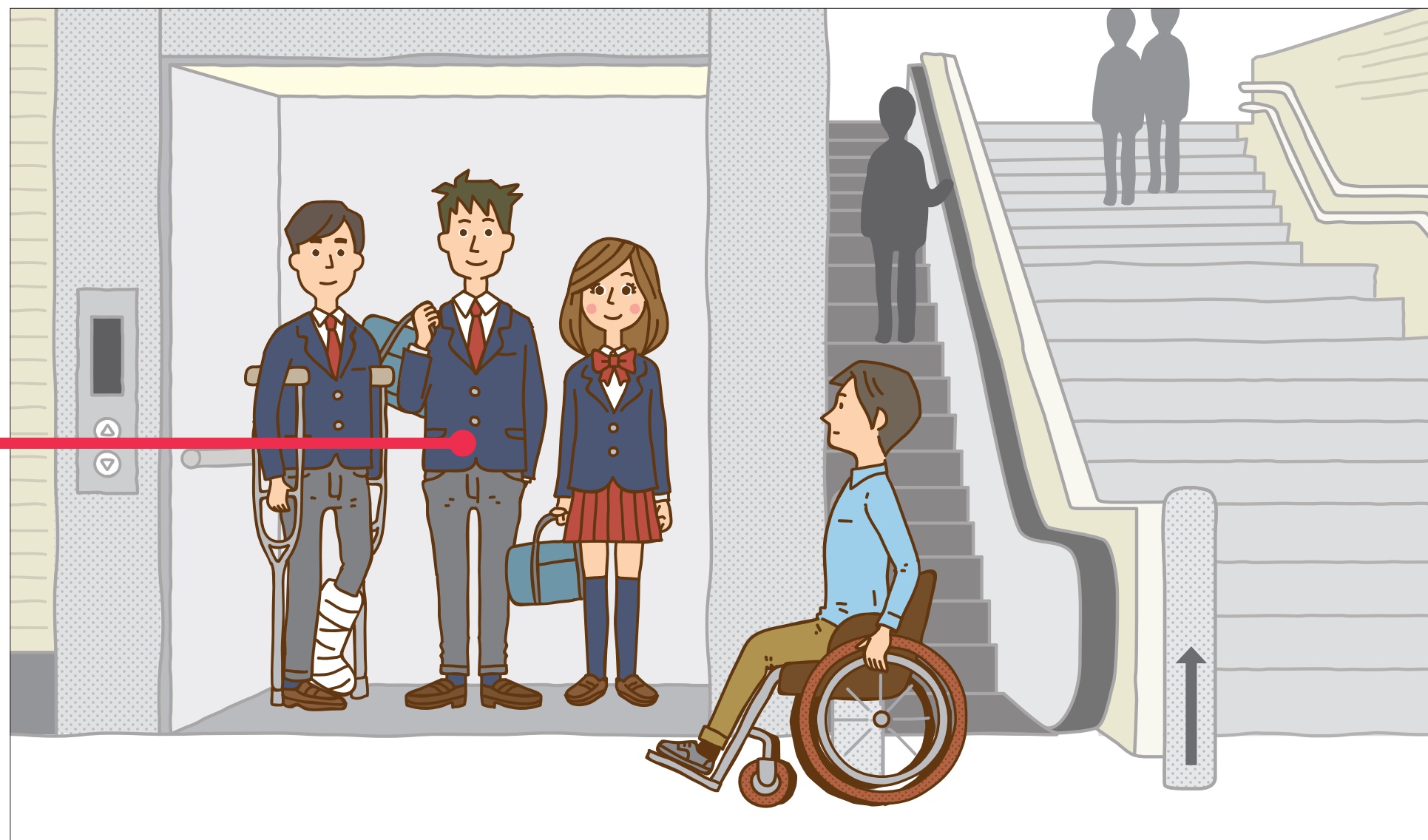
まちでの「公平」を
考えてみよう。

実際の社会の中での「公平」について
考えよう。

? T あなたならどうする？ ①

ケース① 3人は同じクラスの友達

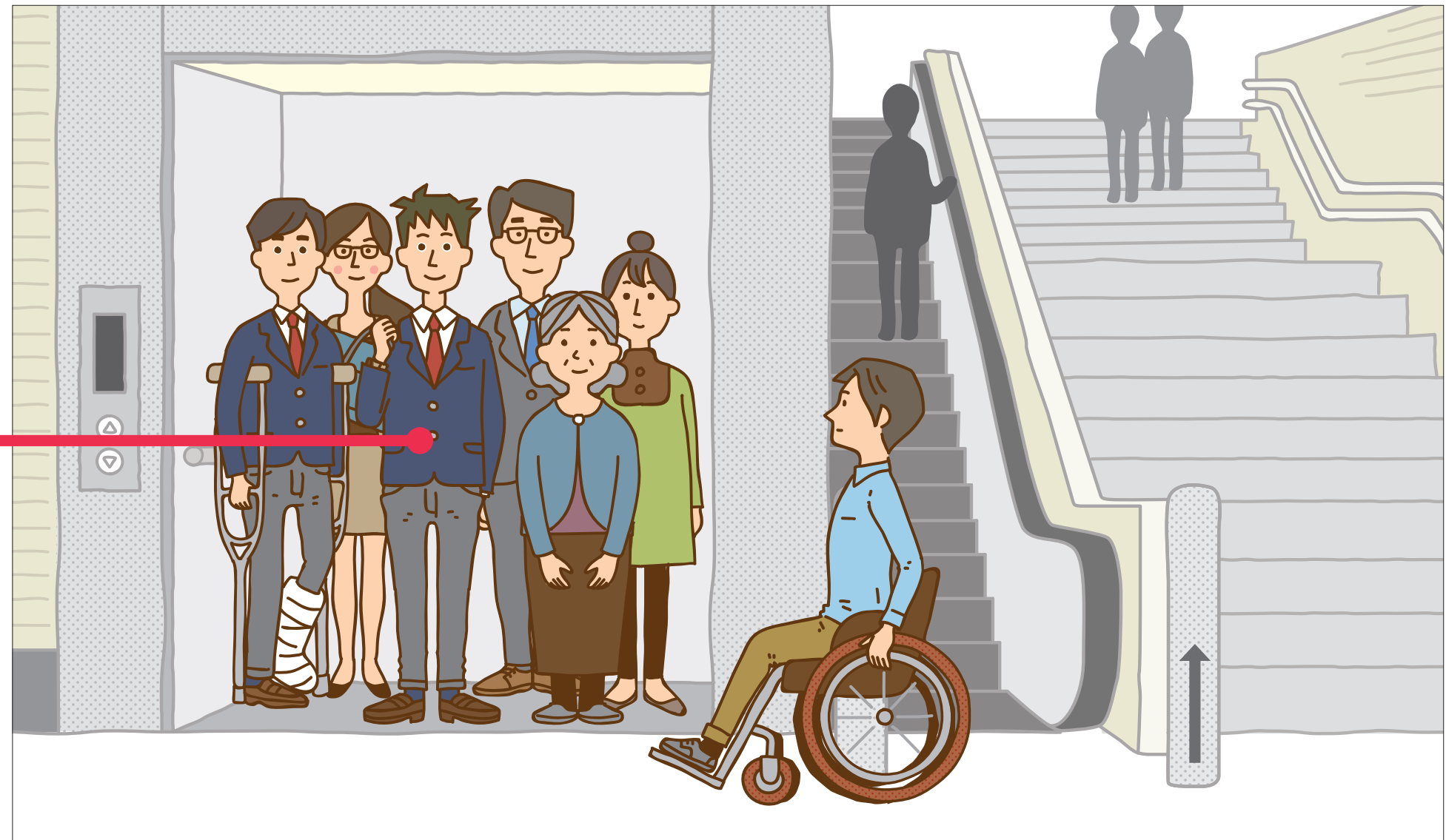
あなた



? T あなたならどうする？ ②

ケース② あなたと松葉づえの人は同じクラスの友達

あなた





発表しよう！


社会での「公平」を考えるポイント

- ・ じょうきょう 状況を判断し、多様なニーズを想像する。
- ・ 他に手段がないか考える。



目 「公平」な社会を実現させるために

同じ条件の人は同じように扱われるが、
条件が^{ちが}違う場合には「不利な状況を補うため、
違うように扱われるのが当然」と理解する。



「一人ひとりの違いを理解して工夫」
することが大切。



障害者権利条約 ①

2014年、日本は障害者権利条約を締結^{ていけつ}。

障害者の人権や基本的自由を
守るための約束。

「障害の社会モデル」 という考え方を反映。

「障害」は、個人の心身機能に由来するのではなく、社会
が作り出しているという考え方

📖 障害者権利条約 ②

- ・ 第2条 「合理的配慮」をしないことは差別である。
└ 置かれている不利な^{じょうきょう}状況を補うために、^{べんぎ}便宜を図ること
- ・ 第5条 障害に基づくあらゆる差別を、国が禁止。
- ・ 第9条 建物や公共の乗り物、情報や通信などが障害者にとって使いやすくなるよう定める。
→生活していく上でのバリアをなくしていく



一人ひとりの^{ちが}違いを理解して工夫すれば、
だれもが自分のベストをつくすチャンスが
あると気づかせる力。

パラリンピックの価値「公平」

パラリンピックの価値

■ 勇気

つらいことやできないかもしれないと思うことから、
逃げ出さないで立ち向かう力。

■ 強い意志

あきらめ
諦めないで、目標に向かって努力し続けられる力。

■ 公平

一人ひとりの^{ちが}違いを理解して工夫すれば、
だれもが自分のベストをつくすチャンスがあると気づかせる力。

■ インスピレーション

強く気持ちを揺さぶられ、自分も何かに^{ちょうせん}挑戦してみたいと感じさせる力。